



けやき

令和 2 年 6 月 3 0 日
東村山市立東村山第六中学校
学校だより 7 月号
東村山市秋津町 2-29-14
発行者 校長 大堀 浩

「普通とは」

校長 大堀 浩

◆親の似顔絵をかくときに「肌色で塗りましょう」と言われ、「涙ながらに茶色のクレヨンを取り親の顔をかいた。」という本校出身のプロ野球・楽天イーグルスのオコエ瑠偉選手。肌の色などを理由に、周囲から心ない言動を受けた体験をSNSに投稿し、反響を呼んでいます。相手チームから、「外人いるぞ、黒人だ」、「甲子園には黒人はでるな」という言葉もあったそうです。アメリカを発端に、人種差別抗議運動が起きています。差別や人権侵害等は絶対にあってはならないことです。1学期に予定していた第1学年の「全生園に学ぶ」の活動は延期になりましたが、いつでも人権のことや、自分や相手を大切にすることを意識して生活したいものです。コロナ禍のなか、我々の「普通」についても、問い直してみる必要があるのかもしれませんが。

◆例年6月に、東京都では「ふれあい（いじめ防止強化）月間」として、いじめ実態調査を行っています。本校でも「こころのアンケート」を実施するとともに、第1学年生徒にはスクールカウンセラーによる全員面接を実施いたしました。東村山市でも、4月に「東村山市虐待・いじめのないまち宣言」を行いました。いじめだけでなく、臨時休業期間が長く続き、学校再開後もペースをつかめずにいる生徒もいます。教職員一同は、「全ては子供のために」の意識で取り組んでおりますが、御家庭でもお気付きの点がございますたらお知らせください。

新型コロナウイルス感染者の回復や、私たちの生活のために必死で働いている医療関係者がいることへの感謝の気持ち

を忘れないように、放送による朝礼でも全校生徒に話しました。さらに、感染者や濃厚接触者に対する偏見や差別の防止についても指導しています。

◆関東甲信地方は、6月11日に梅雨入りし、蒸し暑い日や雨が続くことも予想されます。マスクをした「新しい生活様式」での梅雨は初めてのことです。命や健康を守ることを第一に、校内での安全指導等を徹底してまいります。引き続き、御家庭・地域でも御協力をお願いいたします。

◆「活気が出てきましたね。」

6月22日から再開された部活動での生徒の様子を見た教員の一言です。まだ放課後1時間程度の活動ですが、楽しそうな笑顔、仮入部する第1学年生徒を迎え、先輩としての働きを見せる上級生。臨時休業期間中は、ガランとしていた校庭が狭く感じられました。中学校としての通常の活動が戻りつつあります。生徒の声や楽器の音等で、地域の方にはご配慮をいただくこととなりますが、引き続き御容赦いただきますようお願い申し上げます。

◆6月は読書月間でした。例年通りの図書室の活用はできませんでしたが、分散登校時の「お楽しみパック」も多くの生徒が借りていきました。また、図書室が開くのを待ちわびて、本を借りていく姿も見られました。

読書によって、その人の生き方や将来を左右するほどの影響力があるといえます。ご家庭においても、読書についての会話ができることを大いに期待しております。